

# 山と博物館

第30巻 第8号

1985年8月25日

大町山岳博物館



仲よく餌を食べるマーモット達(右から2匹めがアルモ) 7月30日撮影

## アルモの死

四月二十七日、北アの残雪と満開のサクラで色どられた大町市に、二つがいのアルモ・マーモットが到着した。オーストリアのインスブルック市にあるアルモ動物園で生まれはるばる日本までやってきた彼らは、大町市民こそつての盛大な歓迎式で迎えられた。そして、全国公募の愛称募集で集まった一万五千通を越す応募者の中から、雄には「マーモ」と「アルモ」が、雌には「ナナ」と「リリー」の可愛らしい名前をつけていただいた。

ところで、野生動物を飼育する場合は、その動物の習性や性質を徹底的に知りつくし、動物の気持になって保育することが重要である。日本での飼育記録が全くなく、不明な部分が多い彼らのために、新しい飼育舎に開始した七月二日と三日に、第一段階の調査として日週行動の観察が行われた。彼らの早朝の目覚めから、夕暮れのねぐらにつくまで、終日行動を追跡して基本的性質をつかむねらいである。

二回にわたる調査が終了した八月七日のことであった。朝の飼育点検時にアルモの姿が見えず、一日がかりの緊急捜索によってカモシカ園の一隅でたおれていたアルモが発見された。飼育舎から外に出た気の小さい臆病な彼は、餌も水もとれないまま、酷暑の中をおびえながらさまよい歩き死亡したものと思われる。

多くの人々から歓迎を受け、とくに、大町市民の皆さんからは温かいご支援をいただきながら迎えられ、愛されていたアルモだけにかわいそうな結果となり切なく悲しい気持ちでいっぱいである。

私たちは動物親善使節アルモの冥福を祈るとともに、彼の死が無駄にならないように、そして、大町市とインスブルック市相互の発展と友好のきずなが一層深まることを願いながら、新しい努力を重ねて行きたいと思う。

(平林国男)

# アルプス・マーモット

## 近況報告

宮野 典隆 夫

かわいいアルプス・マーモット

4月27日、オーストリア・インスブルックのアルプス動物園から当館に2つがいのアルプス・マーモットがやってきました。落成した飼育舎で行なわれた歓迎式には、たくさんの子供達がつめかけ、4匹は歓声の中、飼育舎に放られました。

ところで、マーモットという動物は、ヨーロッパアルプスの標高一二〇〇〜二七〇〇メートル辺までの高山に住むリスの仲間です。リスといっても、木登りよりも穴掘りが得意で、自分達で掘ったトンネルの中に巣を作って集団生活をし、冬はそこで冬眠します。



子供たちに歓迎される(4月27日)

このマーモット達、一般公募により、オスにはアルモとマーモ、メスにはリリーとナナというかわいらしい名前まで与えられたのですが、環境が大きく変わったためか放飼場になかなか姿を見せず、5月の連休中は私達をよきもきさせました。

「幻のマーモット」などという名前を頂戴したのもこの頃です。しかし、5月も終わりにになると、時おり何匹か見学者の目の前でも愛嬌をふりまくようになり、最近では夕方、少し遠くからなら4匹そろって餌を食べる様子までも観察できるようになりました。

そこで、今回はマーモットの生活ぶりを、何度か試みた終日観察や毎日の飼育の中から少しでも紹介できたらと考え、特集を組むことになりました。

### 飼育舎の仕組み

飼育舎は、大きく放飼場と寝室に分かれています。

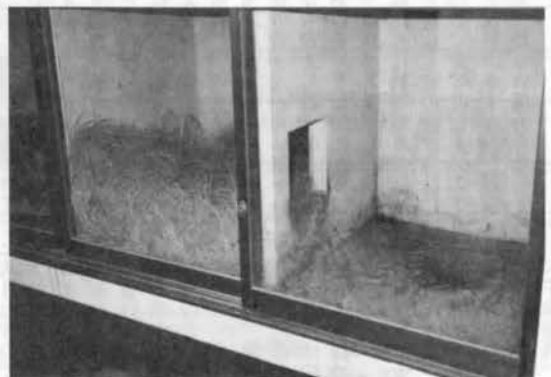


放飼場

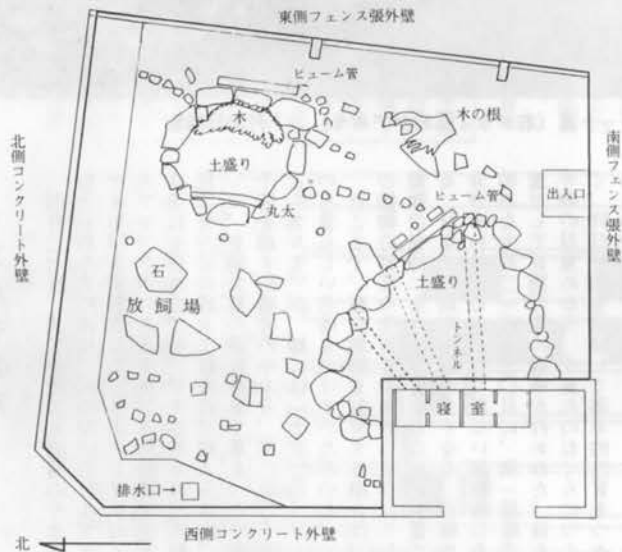
放飼場は面積77平方メートルで、斜面をコンクリート張りした中に2ヶ所の土盛りを設けてあります。木の根や丸太は、はじめからあったのではなく、少しずつ慣れるに従って放飼場中央に見える小さなトンネル張りの小屋の足をよくかじるようになったのを見て置いたものですが、案の定、彼等は伸び続ける門歯の歯研ぎや、警戒時の足場に使っています。

フェンス張り外壁の下側をかこった波トタンも同じで特に隅や角のフェンスをかじったりひっぱったりするために貼ったものです。上空の針金は、猛禽類避け、黒の寒冷紗は、真

### 寝室



夏の日避け対策です。また、餌は通常、放飼場中央付近に夕方1回置かれ、水もその近くに置かれたステンレス製のバットに掛流しされています。寝室は面積1.5平方メートルで、60センチ四方の



飼育舎の平面図



上 アルモ(右)とマーモ(食べる):下 マーモ(歩く)



○食べる  
マーモットは体の大きさの割合には良く食べる動物です。  
給餌用バットに頭をつつこんで犬のように食べるしぐさと、後肢と尻で体を支え真直に立つて食物を手に持って食べるしぐさとがみられます。手に持って食べる時は、バットの中央から食物を口にくわえてボーリングのピン立ち姿になってから手に持って食べます。両手を使ったり、片手だけの時もあります。

4室で構成されており、2室ずつが続きになっています。中央の2室には干草が敷かれており、主にここで眠ったり休んだりしています。両端の2室は主に糞場に使用されています。また、寝室はガラス張り、中の様子が観察できるように工夫されています。  
放飼場と寝室の全体的構成は図の通りで、マーモット達は埋設された3本のトンネルを通して自由に往来でき、また見学者も金網に遮られることなく観察できる仕組みになっています。

○糞と尿



毛づくろいするアルモ

○歩く  
ゆっくり歩く時は四肢を交互に運びます。この時尾を上下に振りながら歩く時があります。トンネルや狭い場所では、ほ伏前進、急ぐ時は一足飛びで動きます。

○穴掘り

土盛りの部分を前肢で土をかき崩して、腹のあたりにため込み後肢で蹴って土を出します。直径10センチ位の石などは鼻先で押し出すこともあります。穴掘りの行動中はたびたび顔を穴の外に出して、周囲の様子をうかがいます。

○休息

放飼場での休息は土盛りの石の上、木の根の上などに腰をおろしますが、長い時間ではありません。寝室での休息は干草の上に丸くなって、長時間にわたり睡眠をとる場合が多いようです。



警戒するアルモ

マーモット給餌量 1頭/1日			
リンゴ	50g	配合飼料	25g
ニンジン	60g	乾燥食パン	35g
サツマイモ	60g	タンポポ・イタドリなどの野草	約500g
キャベツ	100g		

○毛づくろい  
座りこんで腹部をなめる毛づくろいと、後肢を開いて首のあたりをかく毛づくろいが見られます。

○警戒  
トンネルから顔を出したままの姿勢で、数分間警戒する時や、ボーリングのピン立ち姿になり、首を伸ばして警戒する時があります。特にマーモット舎の近くで飼育しているトビのかん高い鳴き声に敏感で、時々、鋭い「ピーッ」という口笛のような声を出してトンネル内に逃げこみます。

○ミニユケーション

鼻先をつきあわせたり、お互いの体の匂いをかぐような行動がみられます。寝室では、「クークー」と鳴きながらじゃれあうこともあります。

○かじり

木の枝、丸太等をよくかじり、やわらかい木は1ヶ月程でぼろぼろになります。

○7月21日

マーモが5時53分に行動を開始しました。その後17時までに6回、トンネルから顔を出したままの姿勢がみられましたが、放飼場へ出ての行動はみられませんでした。

アルモは6時4分から放飼場での行動を開始し、採食、穴掘りなどの行動を示し、14時16分以降は姿を現わしませんでした。これは14時20分から降りはじめた雨の影響があると思われる。

○7月30日

5時8分にマーモが、5時35分にナナが、5時41分にリリーが一度顔を出してはトンネルに隠れてしまいました。アルモだけは5時41分にトンネルから顔を出した後、すぐに放飼場へ出て歩き始めました。引き続きナナ、マーモ、リリーの順で姿を現わし、採食、毛

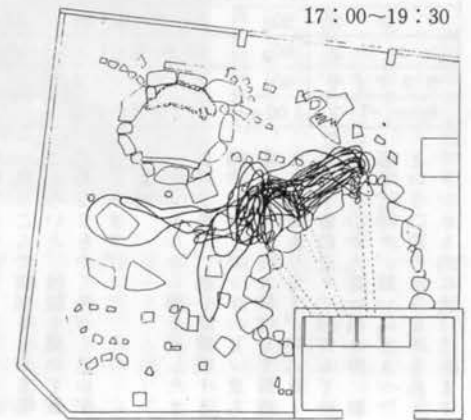
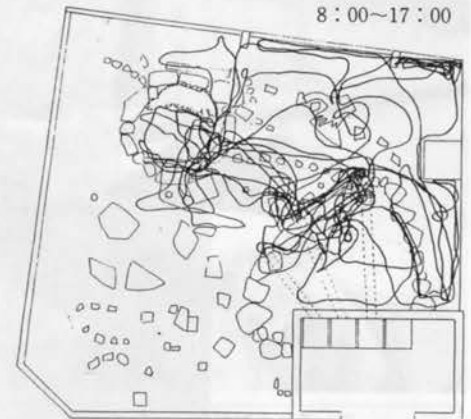


鼻先をあわせるアルモ(左)とマーモ



じゃれあうマーモ(上)とマーモ

づくろい、穴掘りなどの行動をして、7時から8時ころまで放飼場にいきました。  
朝の行動はトンネルの出入口を中心として土盛り、木の根、南側フェンスの範囲です。  
8時以降15時まではアルモだけが姿を現わし行動しました。この間、朝と同じように採食、毛づくろい、穴掘りなどの行動がみられ、



何といつても餌の苦労が一番です。初来日ということで飼育記録もなく、当初はアルプス動物園側のアドバイス通り給餌をしました。その中の一つに、野草も欠かさないと、特にタンポポを好む、とあったので、それからタンポポ採りが日課になってしまいました。タンポポといえは、どこにもある雑草のほうで、一日々々食べる量が増えてゆくの、館の周辺から絶滅?し、6月初めには人づてに遠くまで採りに行かねばならない始末でした。今ではイタドリやヒメジヨシも比較的好んで食べることが分かったので楽ですが、当時はどこに行っても知らず知らずタンポポが目がいってしまつたものです。  
苦労といえはもうひとつ、今でも手を焼い

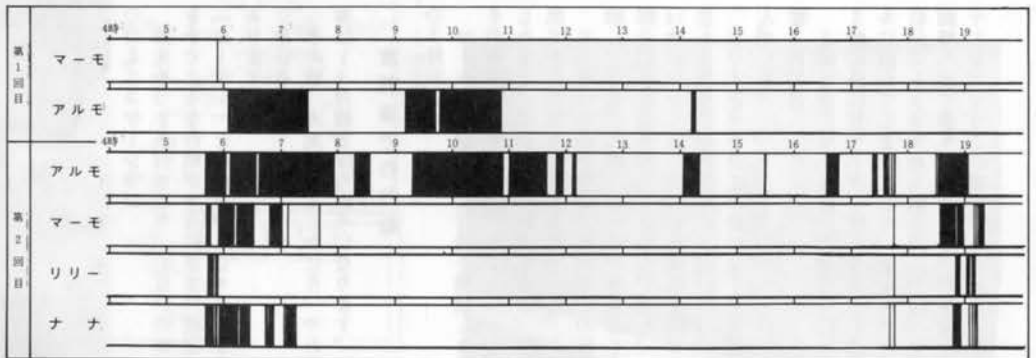
行動範囲も広がっています。アルモが活動している間は見学者が頻りに来て、北側、西側コンクリート外壁より見学をしていました。17時に付属園を閉めました。17時22分から17時47分の間に次々と姿を現わし採食をしました。17時50分から18時5分まで掃除と給餌のため管理者が飼育舎に立ち入つたため、マ

### 飼育あれこれ

ている穴掘りがあげられます。2ヶ所の土盛りは彼等に穴掘りをさせてやるための施設だといつてもよいのですが、これほどの工事をしてくれるとは思いませんでした。マーモット達にしてみれば、コンクリート面にかき出した石や土、穴ぼこだらけの土盛りを「荒れ果てている」とは感じるはずありませんが、こちらとしては放っておくわけにもいきません。土盛りが浅くなっていつには困るので派手に工事をしてくれた時はそのたびに、かき出された石や土をもとに戻すという、イタチごっこならぬマーモットごっこを繰返したり、食べられそうにない常緑樹を植えて殺伐さを和らげたりと、放飼場環境美化運動?も楽ではありません。

1モットは4匹ともトンネル内に入つてしまいました。掃除が終わって40分後にアルモが姿を現わし、マーモ、ナナ、リリーの順に出てきて、19時10分まで放飼場にいきました。この間は採食に専念し、行動範囲もトンネル出入口と給餌用パット周辺に集中しています。  
(大町山岳博物館職員)

山と博物館 第30巻 第8号  
発行所 長野県大町市 T.E.L. 250-211  
印刷所 長野県大町市 大町山岳博物館  
定価 年額一、二〇〇円(送料共)(切手不可)  
郵便振替口座番号(長野四一三三九九二)



放飼場での行動時間(黒い部分が滞在時間を表す) 第1回 7月21日 晴後雨 Max 26℃ Min 16℃  
第2回 7月30日 快晴 Max 30℃ Min 17℃